

大垣の産業—20世紀から21世紀に向けて

飯 島 孝

1. 歴史を読む
2. 大垣にみる二つのオランダ
3. 「細雪」の大垣
4. 遠望すると…向きが変わる

1. 歴史を読む

世紀末を迎えて、20世紀は大垣の産業をどのように変えたか。また変わっていったかを考えてみたいと思います。

私は、産業の変化発展は技術の発展と深くかかわり合っていると思うのです。そこで19世紀後半から20世紀にかけての技術年表をつくり、大垣の産業を関連させてみようと思います。世界の技術史の中で、西美濃の風景、街角から暮らしの変化を読むのです（文末年表参照）。

2. 大垣にみる二つのオランダ—幕末から明治…鉄道と電気、繊維

〈オランダ修交400年〉今年、関ヶ原の戦いが終わって、400年です。これを機に、徳川政権が樹立し鎖国に向かいます。しかし、この年、オランダ船が大分に着き、オランダを通し、鎖国の中で、わが国では、わずかに世界の動きを知ることができました。長崎の出島の商館員オランダ人が、もたらす情報、つまり蘭学から受容した文化が、脱亜入欧と、わが国の社会を大きく変えたのです。

オランダを通して、脱亜入欧の近代化への途を、幕末から明治への大垣でもみることができます。それは、蘭学と土木技術の二つのオランダの文化、科学、技術です。

〈蘭学の大垣—輪中から遠望した世界—飯沼慾齋と久世喜弘〉江馬欄齋は大垣藩の藩医でしたが、江戸在勤のとき、杉田玄白から『解体新書』

の講義をうけ、さらに開明的な藩主戸田氏の許可えて、前野良澤から蘭学、蘭語を学びます。蘭齋は大垣に戻り、医師を開業、蘭学塾好蘭堂を開きました。藩主はこれをサポートします。大垣には、江馬家の他、蘭学者、蘭医は飯沼慾齋がおります。慾齋は漢方の町医者でしたが、慾齋の親友が江馬の門下生にであったことから、慾齋は一念奮発し蘭学を学び蘭医になったのです。彼は、俵町で開業、蘭医として流行るのです。慾齋は罪人の刑死体を解剖します。いま、その碑は市内の今村墓地に建立されています。

慾齋は、医師でもありましたがナチュラルストでもあったのです。

大垣の近くの伊吹山は、石灰岩、つまり塩基性の地層です。塩基性の地層は植物を矮小化させて変種をつくります。伊吹山の植生は、また、日本海気象の影響を受けています。古来、伊吹山の中腹に育つ「さしもぐさ」といわれた「ヨモギ」は薬草としても尊ばれてきました。幕末、本草学の大家、小野蘭山は、伊吹山で植物、それと薬草を採集、金生山で化石を採集します。慾齋は蘭山に師事します。慾齋は50才で医業を譲り、平林荘に隠居します。彼はそこで、顕微鏡をつくり植物を観察します。彼はいままで日本的な本草学からリンネの植物・博物分類にもとづいた植物図譜の大著『草木図説』をも著します。慾齋が70才の時、1852年草部20巻を脱稿し、1856年配本を始め、1862年に草部の出版が完結します。彩色された植物図鑑で、大垣で出版されたのです。大垣では飯沼長蔵の『定量試

が大阪市の工業研究所で開発されます。この酢酸合成の技術で、組合が創設したのが、日本合成化学工業です。20世紀の化学技術は合成化学の時代といわれますが、時代の表れです。

昭和3年(1928年)に日本合成化学工業大垣工場が完成しました。合成には、硫酸溶液に水銀触媒とアセチレンガスを入れて反応させるのです。反応器は最初、酸に耐える金属がないため陶器製でした。これでは大型化は困難です。その後、ステンレス製の反応器をドイツのクルップに製作させます。この反応器は、30年の操業に耐え、操業停止後、ピカピカのまま、いま、同社門前に記念として遺されています。この工場は水俣病を引き起こしたチツソと同じようなプロセスです。チツソも余剰電力の利用から始めた事業です。日本合成化学工業の排水から水俣病が起きなかったのは水門川の魚を食べなかったことに関連しているかもしれません。

日本合成の酢酸を運ぶために藤巻瓶をつくったのが日本耐酸瓶工業です。破損防止のため竹のかごー藤巻に入れた10リットルのガラス瓶です。10リットルまで、溶けたガラスを空気で膨らます技術がポイントでした。

明治から昭和にかけて大垣の工業は、揖斐川の水力電気を元に化学工業、あるいは繊維工業も関連しながら発展したようにみえます。

大垣は中山道と東海道、そしてこれを結ぶ美濃路、揖斐川と運河とによる桑名への海運と交通の要衝の地であったのです。明治、蒸気機関の次代になると、東海道の鉄道、大垣、桑名間は外輪蒸気船がゆききします(この間、5時間、33銭、2往復)。さらに、この蒸気船は鉄道に変わります。

鉄道の開通が新しい産業を誘致した例に、枳の製作があります。枳の材料には木の目が積んだ木曽檜、サワラで製作すると、正確な量を測ることができます。木曽檜やさわらは木曽川で輸送され、名古屋の熟田が集散地でした。東海道の開通は、これを運河、川の近くに立てられた大垣の材木屋の貯木場に輸送したのです。そして木曽檜、サワラを材料にした枳製作の技術と企業(日比製作所など)が大垣に集積するの

です。

わが国のリーディング産業が繊維工業の時代、大正は、わが国の繊維企業ほとんどが大垣に進出し、街は、若い女工さんの華やいだ声で賑わっていました。

3. 『細雪』の大垣一大正から昭和へ… 自動車

〈昭和14年の大垣駅〉昭和14年の大垣の駅を撮った写真があります。黒々とした蒸気機関車が並び、石油ランプのカンテラも写っています。炎天下につるはしを振り上げる保線工夫のかけ声も写っています。大垣は鉄道の街でした。

舗装がされずに小石が光る平屋の駅前には、シボレーKが2台と数台の人力車が並ぶ、写真もあります。ちょうどその頃の大垣の風景が描かれている谷崎潤一郎の『細雪』には、主人公の姉妹が大垣の在、貴族院議員に縁がある豪農を訪ねます。姉妹は「埃っぽい暑い田舎道をポロポロの自動車」で走るのでした。物語の姉妹がうける馳走は長良川で捕れた鮎を氷詰めで運ばれてきました。まだ豪農の宅でも電気冷蔵庫はありませんでした。当時、東芝の調査では、わが国には電気冷蔵庫は1万2215台、価格が600円から800円、家一軒と同じでした。

東芝の電気冷蔵庫や洗濯機、つまり家電の調査は、昭和12年に行われます。このマーケティングリサーチは、15年に開催が予定されていた東京オリンピックには家電製品が普及されると東芝が提携するアメリカのGEが睨んでいたからです。アメリカは、当時すでに5人あたり1台の自家用車を持ち、家電製品に囲まれたアメリカ人的生活様式がとられていたのです。

20世紀は自動車で走り始めます。1908年、互換性部品で大量生産方式で製造された、フォードのT堅車はアメリカ人の必需品になります。自動車のための薄くて靱性のある鋼も大量につくられます。タイヤのゴムも必要です。道路も舗装されます。自動車のガソリンエンジンは石油のガソリンを必要としました。石油はそれまでの灯火の時代からエネルギーの時代に、石油

の世紀に移るのでした。

林町に花村製油のカンバンが立っています。灯油販売と書いています。石油の灯油も売っていますが、同時に天ぶら油の菜種油も販売しています。かつては菜種油は行灯の灯油でした。美濃から伊勢（四日市）にかけて、春、真っ黄色な菜の花が一面に広がり、これに桃色のレンゲが織りなす景観が西美濃でした。菜種は灯油としての商品作物でした。レンゲは、合成肥料が普及しない時代、田圃の地味を肥やしていたのです。

花村製油所は、菜種から油を絞る製油所でした。時代は行灯から、石油の灯油の洋灯ランプに変わります。いま、石油の灯油はもちろんランプやカンテラに使われてはおりません。ストーブ用の灯油です。

大垣の産業、農産物の食品加工では、菜種油の他に「あられ」があります。大垣は、わが国の「あられ」の有数の産地です。これは揖斐米の産地が源泉にあります。

先に述べましたエディソンの電灯は灯油を不要にしますが、自動車の出現が灯油をもガソリンに変えるガソリン製造技術がつくられ、さらに、この技術が石油化学を生誕させます。

〈石油と自動車〉『細雪』に関西の上流社会、船場の風俗の物語です。「こいさん」と呼ばれる末妹と姉妹たち、船場の古いしきたりの風俗、姉妹たちがすむ芦屋、そこの脱亜入欧のハイカラな文化を物語る『細雪』は、国策にあわないと雑誌掲載の中止を軍部は命じます。

江戸時代からの矢橋家の和風建築、そこからハイカラと言われた一代目矢橋亮吉と二代目亮吉が大理石事業を始めます。それは和風建築でなく洋風建築でした。国会を始め各地につくったビルディング、そして自宅までもが、大理石の洋風建築でした。矢橋大理石の事業は、大理石建築、石の文化による脱亜入欧とみてよいかと思えます。

昭和13（1938年）年、イタリアの経済使節の一員がイタリア大理石輸入と亮吉がムッソリーニに日本刀を贈った縁で訪ねてきたのでした。その前年、昭和12年は、日独防共同盟にイタリア

が参加したのです。

昭和15年（1940年）開催予定の東京オリンピックは、紀元2600年祝賀会に代わり、全国津々浦々に、五輪旗ではなく日章旗だけがはためきます。

昭和15年にはトヨタ自動車が創立され、自家用車よりは軍用トラックをつくります。

自動車時代がくると、太平洋工業はバルブコア（ムシ）の製造を昭和5年（1930年）に始めます。昭和8年（1933年）には、西濃運輸の田口自動車がトラック6台で大垣に進出します。

四日市の海軍燃料廠ではアメリカに負けない航空機用の高オクタン価ガソリンをつくらうとしますができませんでした。これは日本合成化学工業の酢酸合成装置を使って高オクタン価ガソリンをつくらうとしたのです。

昭和16年（1941年）、わが国はアメリカと戦争を始めます。大垣の繊維工場は航空機の部品などを製作する機械工場に変わります。矢橋大理石は大理石が計器盤に向くと、これを製作します。また、工作機械の定盤は鉄材節約のため花崗岩製の定盤の製作を始めます。大垣の工業は戦時一色になりました。

4. 遠望すると…向きが変わる

「欲しがりません勝つまでは」といわれた戦争は負けました。負けた結果、欲しいものは何でも手に入り、欲しくなくても押しつけられる世の中になりました。4半世紀ぶりで、つぶれた東京オリンピックが開かれます。新幹線が走り、東京日本橋の上に高速道路が走ります。「ゴミ箱よさようなら」とタールを塗った黒い木製ゴミ箱がプラスチックに変わります。ゴミ箱は「さようなら」でもゴミに「さようなら」と言ったのではありませんでした。それ以後、かえってゴミは増え続けます。

サ・シ・ス・セ・ソが主婦の仕事、裁縫・しつけ・炊事・洗濯・掃除が機械化されました。工場の機械化が家事にも及んだのです。車と家電のアメリカ的生活様式が普及したのです。

高度成長時代を経て、大垣の風景は変わりました。大垣駅北口の繊維工場跡地は駐車場です。

50年前、2台の自動車しか並んでいなかった大垣駅は、自動車に溢れているのです。高い塔の建物ソフトピア、情報技術の発信をもくろんでいます。埃っぽく、高温にさらされたカーバインド工場のイビデンは埃を嫌う電子基板作りに勤しんでいます。日本合成化学工業は軸足を石油化学コンビナートに移しました。

大垣では企業の立地は、かつては、揖斐川の水力電気のエネルギー、照明、電熱の利用、地元産の石灰、大理石、菜種の利用する産業、そして輸入される羊毛、木綿を、労働集約的に加工する繊維産業が主に集積しました。これら産業の資本は地元資本と地元以外の大資本の繊維産業でした。

わが国のエネルギー源—石油や原材料を輸入して、労働集約的に加工する工業が大きく変貌を遂げていますが、大垣でもその例外ではありません。

中小の木酢企業の資本を主として成立した日本合成化学工業は、石油化学コンビナートに組み込まれ、三菱系資本に再編成されました。繊維産業は合成繊維の勃興とともに、合成繊維工場を中心に再編成されました。イビデンは戦時下に国策にしたがって電力供給事業発電事業を廃止して、大日本紡績の傘下になり、カーバインドなどの電気化学工業を中心にした企業になります。大日本紡績は合成繊維を趨勢とみてイビデンを中核とした化学工場を目算していましたが、戦後、大日本紡績の財閥解体に伴い、その傘下からイビデンは離れました。わが国の化学工業、チッソ、昭和電光などは、カーバインドから石灰窒素、そして肥料、合成化学工業と事業を大規模に展開するのですが、イビデンの事業展開は、三井系資本と提携するものの、カーバインド、石灰窒素、炭素電極、メラミンの生産は小規模で、違った独自の軌跡をとります。イビデンは、前記したように経営資源をメラミンを建材へ、さらにメラミン建材のプリント技術をプリント基板、エレクトロニクス分野に向けたのです。

大理石は輸入に依存しても、矢橋大理石は加工技術と工場施設で優位性を維持しています。

菜種などの植物油の原料は、四日市に輸入され、その製油技術も変わり、そこで大規模に食用油が生産されています。そこで生産した植物油を花村の名で花村製油所は、いま、販売しております。

大垣の街角で、しばしば、私たちは外国人に出会います。これは大垣の産業が、外国に生産拠点を移したり、あるいはその製品を輸入、そのため打ち合わせに出向いた人、実習に来た人、単に就労のために来た人と様々です。そして外国人の国籍も様々です。これは、一言でいえば、産業のグローバル化の結果です。かつて、輪中から蘭学を通して遠望していた世界を、その人たちに、私たちは直に触れているのです。

再び『細雪』の物語に戻ります。姉妹たちは梁川星巖や江馬細香の書がかかる爛柯亭で宴をやり、夢の中にいるかのような蛸狩りを楽しむのでした。蛸が飛んだ杭瀬川には、農薬のために蛸が消えました。

DDTを発明したスイスのミュラーはノーベル賞を受賞します。その後、リチエルカーソンが、『沈黙の春』を出版します。春がきても鳥のさえずりが無い。それは殺虫剤で虫が死に、それによって鳥も死ぬ、つぎは人間かと未来が暗示されたのです。DDTへの評価も変わったのです。20世紀は合成物の時代で、しかも合成物による毒殺の時代でした。

爛柯亭の爛柯の意味は、樵が囲碁をみているうちに時間がたつのを忘れ、気がついたとき持っていた斧が腐ってしまうほど時間が過ぎていたという中国の故事です。

辻原登は『村の名前』で芥川賞を受賞します。主人公の商社マンが商用で中国に行き迷い込んだ村が、偶然にも桃花村という名前でした。商社マンは、揖斐川の近くの彼の故郷が、この桃花村に似ていることに気づくのです。『村の名前』では、商社マンに次々に起こる事件が、故郷の村と桃花村、過去と現在を行き来しながら物語は展開します。桃花村—桃源郷は、そこに迷い込んだ漁師が時間のたつのを忘れるユートピアがあったという物語で、時間の逆戻りの

仕掛けがあります。『村の名前』の筋には、やはり、時間の循環、逆戻りが仕掛けられています。

『細雪』は四季の移ろい、時間の循環の中で、姉妹たちの移りゆく姿、風俗を谷崎が物語るのです。作中に爛柯亭を設定したのは、時間の循環、時間の逆戻りを谷崎は自らの文学の表れとして示したのではないのでしょうか。

西美濃は照葉樹林の景観に広がっています。照葉樹林は、爛柯、桃源郷という時間の循環がみえる原風景なのかもしれません。二人の作家の物語に、爛柯、桃源郷がでる故は西美濃が背景にあるからかもしれません。

私たちは、いま、浪費の世界に迷い込み、これを享受し、爛柯、桃源郷で過ぎ去る時間、歴史の記憶を忘却の彼方へと閉じこめたままにしているのではないのでしょうか。

揖斐川電力の水力発電所は3千KWで始まり、その後の増設でも2万KWです。いま石油火力や原子力の発電所は1億5百万KWです。石油の世紀、かつての太陽の化石を瞬時に使い切ろうとしているのです。化石燃料による浪費の桃源郷は21世紀には、もうありません。

私たちは、時間の循環が見える西美濃の原風景に、浪費を享受した20世紀から21世紀の果てが遠望できるのではないのでしょうか。

近世、幕末近い大垣では、新地主層が台頭し、農民の寺小屋による教育熱が盛んになります。一方、城下町の大垣も、商品経済社会へ移り変わり、久世友輔は『心得草』で町人・商人の道、心学を説くのでした。また、儒学による実学が重視され、300人を越す和算塾が開かれます。大垣の蘭学はかような文教の流れを背景にもっていたと思われれます。

輪中の原風景を幕末にタイムスリップさせると、同時代の狭い輪中には、尊皇攘夷の儒者、漢詩人、商人の道を説く心学者、近代科学を励む蘭学者が隣り合わせで、ざわめく日々でした。今、大垣の文教、文化、そして産業は、その輪中がインキュウベータとなって孵化したように見えます。

IT、情報技術、ネットワーク社会がかまびすしく、これが世の動き、大勢といわれています。

しかし、これはカジノ資本主義、投機を誘う仕掛けになっているのを見極めねばなりません。

ケイタイをもちブツブツいいながら通り過ぎる若者がいます。これはIT風景の一つです。彼ら、彼女らは、ケイタイが、いまあるから、いまのことだけをしゃべり続けるのです。もし、ケイタイの会話が、相手を見つめ、未来を見据え、想像力でこれを補うなら、ケイタイがささやく声は、単なる電子の声ではなく、天使の声になると私は思うのです。

産業が、農業・水産業などの一次産業から、工業化し、これが、二、三次と展開して行くのを進歩と取り違え、これが産業、経済の循環を永続させると思っているのではないのでしょうか。

生命の再生産、資源の循環は一次産業が基礎です。製造業の二次産業が、コンピュータ技術を生産過程、流通過程に取り入れながら、大垣ではもちろん、わが国では、やはり雇用を創出し、社会の生産力をダイナミズムに担っていくに違いありません。三次産業は一次、二次産業に支えられて存在するのです。でなければ、三次産業はバーチャルな産業、虚業にみえます。

産業は、一次であれ、二次、三次であれ、浪費の20世紀から、エネルギー、水、地下資源の節約の時代、共感の精神が溢れる経済社会へと21世紀は向きを変えるのです。

（この稿は、2000年4月21日、大垣法人会の講演、「混沌の時代から21世紀へ」を加筆、訂正したものです。法人会で、講演のきっかけをつくっていただいた矢橋修太郎氏に感謝いたします。）

参 考 文 献

- (1) 飯沼惣斎生誕に百年記念誌編集委員会編『飯沼惣斎』1984、飯沼惣斎生誕に百年記念事業会、飯沼惣斎のひとりとなり、業績を約30名の研究者が論文を寄稿しています。惣斎研究会が『惣斎研究会だより』を発行しています。2000年2月1日に88号になりました。
- (2) 実学資料研究会編『実学史研究VI』丸山幸太郎「近世美濃における科学の胎動と背景」では、近世の西美濃で科学が胎動、明治期に科学者が輩出した背景は、大垣藩下の新地主層の台頭と教育熱、大

- 垣藩主の文教への理解、文教の盛んな雰囲気・土壌があったことを指摘しています。遠藤正治『草木図説』初版本の出版過程』を述べています。遠藤は長年「愨齋研究会」に拠って、美濃の蘭学を研究してきました。幸田正孝「本草から植学へ—宇田川榕庵『植学啓原』の成立」1999、思文閣
- (3) 『久世喜弘翁』1920、喜弘の孫、久世勇三が渡辺勝に伝記を依頼、非売品。大蔵省造幣局『造幣局八十年史』1953、造幣局、湯本豪「近代造幣事始め」1987、駿河台出版、久世の造幣寮の仕事がわかります。
- (4) 遠藤正治『堆朱カメラの語る幕末の写真術』1993、福井市立郷土歴史博物館
- (5) 山田賢二ら『西美濃わが街』1983、No76、月刊西美濃わが街、「特集写真館物語」久世喜弘、江崎礼二について記述。
- (6) 江馬文書研究会編『江馬家来簡集』1984、思文閣
- (7) 上林好之『日本の川を蘇らせた技師ア・レイケ』1999、草思社、土木技術者の筆者が文献と実地の調査した結果です。
- (8) 大垣市編『大垣の歩み』1988、大垣市 市政70周年を記念して出版。
- (9) 大垣市文教協会『文教のまち大垣』1981、大垣市文教協会、協会設立20周年記念
- (10) 『矢橋南園翁伝』1965、矢橋大理石商店、非売品、矢橋大理石の社史でもあります。藤森照信「建築探偵・近代日本の洋館をさぐる」NHK教育テレビ1998、10月放映。
- (11) 西濃運輸五十年史編集委員会編『西濃運輸五十年史』1997、西濃運輸(株)
- (12) 社史編纂委員会編『太平洋工業五十年史』1980、太平洋工業(株)
- (13) イビデン株式会社社史編纂室『イビデン70年史』1982、イビデン(株)
- (14) 日本合成化学工業『日本合成化学工業三十年史』1958、日本合成化学工業(株)
- (15) 日本合成化学工業社史編纂室『日本合成化学工業五十年史』1979、日本合成化学工業(株)
- (16) 拙著『技術の黙示録』1996、技術と人間社 化学技術を軸に20世紀の技術を論じています。
- 1755 宝暦治水
1787 江馬細香生誕
1795 江馬欄齋大垣藤江村で蘭学塾開く
1826 久世喜弘生誕
1831 ファラデー：電磁誘導発見
1837 宇田川榕庵『舎密開宗』出版
1844 モールス、ワシントンに電信線を引く
- 1846 宇田川榕庵没
1848 マコーミックの刈り取り機 (シカゴ)
1850 ポーランドセメントによる鉄筋コンクリート
1851 第一回万国博覧会・水晶宮、アメリカ、シンガポール、イギリス、アーチャー、コロジオン法写真
鉄鋼・鉄道の時代
1854 ベリー、軍艦一黒船7隻で浦賀にくる、大垣藩出兵
1856 ベッセマー鋼、アニリン染料、飯沼愨齋『草木図説』配本開始
1958 アーク灯 梁川星巖没
1859 アメリカのドレーク機械掘りで石油探掘
1860 戒臨丸アメリカに向かう
1861 アメリカ南北戦争、和宮ご降臨、中山道で江戸に向かう
1863 アルカリ条例 喜弘、愨齋写真術を行う
1864 マックスウエル：電磁場予言、天狗党、中山道福井に向かう
1865 飯沼愨齋没
1866 ノーベル、ダイナマイト発明
1867 明治維新
1868 アーマーの肉缶詰
1869 スエズ運河開通、アメリカ大陸横断鉄道
1871 造幣寮開業、久世喜弘造幣権助
1872 大垣電信架設
1874 官営釜石製鉄所
1875 ロンドンの主要下水道完成
1876 オットーのガス機関、ベルの電話、エディソンの蓄音機飯沼長藏「定量試験提要」大垣で出版
1877 冷凍肉アルゼンチンから積み荷される
1878 エディソンの白熱灯 (炭素フィラメント)
1879 国立百二十九銀行、大垣に創立、大垣輪中治水会
1880 デ・レーケ木曾三川改修工事立案
1881 久世喜弘没
1882 エディソン火力発電 (直流) で電気供給、濃飛自由党懇親会で板垣退助遭難
1883 東京電灯設立、大垣桑名間小蒸気船運航
1885 ダイムラーのガソリンエンジン、ベンツの自動車、大西洋海底電線完成
1886 ナイアガラ水力発電所操業
1887 電解法でアルミニウム製造
1888 イーストマン、コダックカメラ、瀬古・大曾根堤防決壊大垣輪中大洪水
1889 エッフル塔、東海道鉄道開通
1890 シカゴに鉄筋ビル、ロンドン最初の地下鉄
1891 濃尾大震災、シベリヤ鉄道開通
1893 ベンツの4輪自動車
1895 ロシアのボポフ、イタリアのマルコニー無線通信の実験に成功
1896 フォードの最初の自動車、大垣共立銀行創業
1896 「赤旗」法廃止、大西洋海底電線
1897 トムソン：電子発見、合成インゼゴ、ディーゼ

19世紀後半から20世紀初頭の技術

大垣の産業—20世紀から21世紀に向けて（飯島）

- | | |
|---|---|
| ルエンジン | ト、湯川ノーベル賞受賞 |
| 1898 テラス：交流電動機、ヘルツ：電磁場実証 | 1950 朝鮮戦争勃発、レットバージ始まる |
| 1900 ツェッペリン硬式飛行船（明治33年） | 1952 米国水爆実験 |
| 1901 マルコニー、大西洋の無線通信に成功 | 1953 朝鮮戦争休戦、スターリン死去、ソ連水爆実験、DNA 構造発見、わが国でテレビ放映開始 |
| 1903 ライト兄弟推進プロペラ式複葉機 | 1954 米国ビキニで水爆実験、第5福竜丸被爆 |
| 1904 イギリスのフレミング二極真空管、アメリカのド・フォレ三極真空管 | 1955 森永砒素ミルク事件 |
| 1905 木曾三川改修工事竣工 | 1956 水俣病 |
| 1908 フォードT型車生産、ハーバー：アンモニア合成に成功 | 1957 スプートニク（ロシア人工衛星）、東海村で原子力実験炉、臨界 |
| 1910 イギリス海軍、軍艦燃料に重油を使用
自動車・石油の時代 | 1958 我が国の石油コンビナート稼働 |
| 1912 タイタニック号遭難、損斐川電力創立
アメリカ的生活様式 | 1960 安保闘争、岩戸景気、三池争議 |
| 1913 アメリカ、バードン法によるガソリン製造、ドイツ、ハーバ法によるアンモニア合成
石油の世紀、電化の時代 | 1961 ソ連人工衛星船打ち上げ |
| 1914 第一次世界大戦勃発、戦闘機、爆撃機、戦車、毒ガス、潜水艦の登場、後藤毛織進出 | 1962 『沈黙の春』 |
| 1915 損斐川電力西横山発電所発電開始（電業社水車） | 1963 三井鉱山炭塵爆発事故 |
| 1917 ロシア革命 | 1964 東京オリンピック、新幹線、IFM 8 条国に移行、ドル支配体制 |
| 1918 大垣市制施行 | 1965 イザナギ景気 |
| 1919 養老線全通 | 1968 イタイタイ病 |
| 1923 アメリカで電気冷蔵庫普及（2万台）関東大震災 | 1969 アポロ月面に到着 |
| 1925 矢橋亮吉邸完成（大理石） | 1970 国産衛星打ち上げ、マイカー4世帯に1台、大阪で万国博 |
| 1926 アメリカで電気冷蔵庫と洗濯機の価格低下して普及（20万台、90万台、小売り価格400ドル、150ドル）家事の電化進む
ヘアード、ロンドンでテレビの公開実験 | 1972 『成長の限界』 |
| 1927 高柳健次郎：イの字をテレビに映す | 1973 第一次石油ショック |
| 1928 世界の自動車の80%アメリカ、5人当たり1台、日本合成化学工業大垣工場完成 | 1973 セベンの死の灰 |
| 1929 大恐慌 | 1976 毛澤東死去 |
| 1930 太平洋工業創立 バルブコア製造、日本耐酸瓶工業操業 | 1977 超LSI、日本製造 |
| 1932 TVA 設立 | 1979 スリーマイル島原発事故 |
| 1933 田口自動車大垣に進出 | 1980 富士通ファナックのロボット工場稼働 |
| 1937 日中戦争開始、満州建国 | 1985 青函トンネル開通、プラザ合意、円高進行 |
| 1938 ヒットラー独首相 | 1989 ベルリンの壁崩壊、米ソ首脳冷戦終結宣言、昭和天皇逝去 |
| 1939 第二次世界大戦開始、DDT 発明 | 1997 バブル経済崩壊、公共投資国民負担 |
| 1940 トヨタ自動車創立、紀元2600年 | |
| 1941 太平洋戦争開始、ゼロ式戦闘機 | |
| 1942 マンハッタン計画 | |
| 1943 『細雪』発表されるが国策にあわないと掲載中止 | |
| 1944 V2のロンドン攻撃 | |
| 1945 太平洋戦争終結、広島・長崎に原爆投下 | |
| 1946 エアニック—真空管電子計算機 | |
| 1947 ショックレーら：トランジスター | |
| 1948 ウイナー：サイバネティクス | |
| 1949 中国人民共和国成立、ジェット旅客機、コメッ | |

